

平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月27日

上場会社名 沖縄セルラー電話株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9436 URL http://www.au.kddi.com/okinawa_cellular/index.html
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 湯浅 英雄
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理部長 (氏名) 上原 靖 TEL 098-951-0639
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月6日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	46,674	0.5	9,805	5.2	9,844	5.2	6,941	9.8
28年3月期第3四半期	46,445	5.8	9,318	2.6	9,360	2.6	6,322	5.7

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 7,237百万円 (10.1%) 28年3月期第3四半期 6,576百万円 (5.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	253.87	—
28年3月期第3四半期	231.24	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	80,371	70,098	84.4
28年3月期	78,510	65,637	81.0

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 67,838百万円 28年3月期 63,585百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	46.00	—	50.00	96.00
29年3月期	—	50.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,900	0.4	11,500	2.6	11,600	2.9	7,800	3.9	285.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年3月期3Q	27,342,000株	28年3月期	27,342,000株
29年3月期3Q	68株	28年3月期	68株
29年3月期3Q	27,341,932株	28年3月期3Q	27,341,970株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.7「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、平成29年1月30日に機関投資家及びアナリスト向けに説明会を開催いたします。説明会で配布する四半期決算説明資料は四半期決算短信の開示と同時に、説明会の模様（音声）及び主な質疑応答につきましては説明会開催後速やかに当社ウェブサイトにて掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	8
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	8
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	8
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	8
(4) 追加情報	8
3. 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	12
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	12
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	15
(セグメント情報等)	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 業績等の概要

わが国経済は、企業収益の改善に足踏みがみられるものの、個人消費は持ち直しの動きがみられ、雇用情勢も改善しており緩やかな回復基調が続いております。

当社業務区域である沖縄県の経済は、県内人口の増加や観光需要を背景として個人消費が堅調に推移していることに加え、観光、建設関連も好調を維持しており全体として拡大しております。

情報通信市場は、携帯電話事業者が提供するサービス等の同質化が進む中で、MVNO各社による格安SIMサービス等の立ち上がりもあり、競争環境は厳しさを増しております。

さらに、総務省による「スマートフォンの料金負担の軽減及び端末販売の適正化に関する取組方針」を踏まえた携帯電話事業者への要請及びガイドライン等の制度面の変化、IoTや人工知能(AI)等のテクノロジーの発展もあり、事業環境は新たな局面を迎えております。

このような情勢のもと、平成29年3月期第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年12月31日)における当社のグループ会社を含めた経営成績は以下のとおりであります。

<業績の概要>

	前第3四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	増減	増減率(%)
営業収益(百万円)	46,445	46,674	228	0.5
営業費用(百万円)	37,127	36,869	△258	△0.7
営業利益(百万円)	9,318	9,805	486	5.2
経常利益(百万円)	9,360	9,844	484	5.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	6,322	6,941	618	9.8

当第3四半期連結累計期間における営業収益については、沖縄3M戦略が着実に進展し、au携帯電話及びauひかりちゅらの顧客基盤が拡大したことから、通信料収入が増加し、前年同期比228百万円増加(0.5%増)の46,674百万円となりました。

営業費用については、販売関連コストが減少したこと等により、前年同期比258百万円減少(0.7%減)の36,869百万円となりました。

これらの結果、営業利益は前年同期比486百万円増加(5.2%増)の9,805百万円、経常利益は前年同期比484百万円増加(5.2%増)の9,844百万円となりました。

以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、法人税率引き下げなどにより前年同期比618百万円増加(9.8%増)の6,941百万円となりました。

なお、設備投資の状況については、高速データ通信サービスに係る設備及びau携帯電話サービスにおけるデータトラフィックの増加に伴う通信設備の増設、auひかりちゅらサービスに係る設備の拡張等を実施したことにより、設備投資額4,809百万円となりました。

(注) 3Mとは、「マルチユース」、「マルチネットワーク」、「マルチデバイス」の頭文字です。

② セグメント別の状況

当社グループは単一のセグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

なお、当社グループにおけるサービス別の実績は、次のとおりであります。

<サービスデータ>

(携帯電話サービス)

<契約数・端末出荷台数>

	前第3四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	増減	増減率 (%)
純増数	9,000	7,900	△1,100	△12.2
総契約数	636,300	650,800	14,500	2.3
端末出荷台数	137,100	134,200	△2,900	△2.1

- (注) 1. 純増数及び総契約数には、データ専用端末、タブレット、通信モジュールサービスの契約数も含まれております。
 2. 純増数及び総契約数は百契約未満を四捨五入して表示しております。
 3. 端末出荷台数は百台未満を四捨五入して表示しております。
 4. 増減については端数処理後の数値を記載しております。

<解約率・ARPA>

	前第3四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	増減	増減率 (%)
解約率※1 (%)	0.64	0.60	△0.04ポイント	—
総合ARPA※2,3 (円)	6,574	6,589	15	0.2
au通信ARPA※2,3 (円)	6,297	6,293	△4	△0.1
付加価値ARPA※2,3 (円)	277	296	19	6.9

当第3四半期連結累計期間における携帯電話サービスの状況につきましては、auのラインナップとサービスの充実、ネットワーク品質の向上等、お客様重視のサービスに取り組んだ結果、前第3四半期連結会計期間末と比較して、総契約数が14,500契約増加(2.3%増)の650,800契約となりました。

解約率については、事業者間やMVNO事業者との競争が激化しているものの、前年同期比0.04ポイント減少の0.60%と前年同期並みの水準となりました。

ARPAについては、総合ARPAは前年同期比15円増加(0.2%増)の6,589円となりました。このうち、au通信ARPAについては、前年同期比4円減少(0.1%減)の6,293円となりました。付加価値ARPAについては、「auスマートパス」の契約数の増加を主因として前年同期比19円増加(6.9%増)の296円となりました。

※1. 解約率：対象期間の解約数を、対象期間の前月末総契約数で除したもの。

(データ専用端末、タブレット、通信モジュールを除く)

※2. ARPA (Average Revenue Per Account)：契約者1人あたりの売上高。定義については以下のとおり。

au通信ARPA：モバイル通信料収入 ÷ au契約者数

付加価値ARPA：付加価値ARPA収入(「決済手数料収入 + 自社サービス他収入等」) ÷ au契約者数

※3. MVNO及びプリペイドを除く。

au携帯電話サービスの主なトピックス(平成28年10月1日～平成28年12月31日)

(auラインナップ)※4

当第3四半期において発売された主な商品

- ・スマートフォン
 - 「Xperia XZ」の発売(11月)
 - 「AQUOS U」の発売(11月)
 - 「isai Beat」の発売(11月)
 - 「URBANO」の発売(12月)

- ・タブレット
 - 「Qua tab PZ」の発売(12月)

(料金)

- ・1回5分以内の国内通話が24時間かけ放題になるプラン「スーパーカケホ(ケータイ)」(月額1,200円)の提供を開始(11月)
- ・データ通信が月額0円からご利用いただけるサービス「ダブル定額Z(ケータイ)」の提供を開始(11月)

※4. 商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

(auひかりちゅらサービス)

<auひかりちゅらの状況>

	前第3四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	増減	増減率(%)
純増回線数	8,600	8,900	300	3.9
累計回線数	64,000	75,000	11,000	17.3

- (注) 1. 純増回線数及び累計回線数は百回線未満を四捨五入して表示しております。
2. 増減については端数処理後の数値を記載しております。

当第3四半期連結累計期間におけるauひかりちゅらサービスの状況につきましては、沖縄3M戦略の着実な進展により、累計回線数は前年同期比11,000回線増加(17.3%増)の75,000回線となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 連結財政状況

<資産、負債及び純資産の状況>

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (平成28年12月31日)	増減	増減率(%)
資産(百万円)	78,510	80,371	1,861	2.4
負債(百万円)	12,873	10,273	△2,600	△20.2
有利子負債(百万円)	743	567	△175	△23.6
純資産(百万円)	65,637	70,098	4,461	6.8
自己資本比率(%)	81.0	84.4	3.4ポイント	—

当第3四半期連結会計期間末における資産については、関係会社短期貸付金が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比較して1,861百万円増加(2.4%増)の80,371百万円となりました。

負債については、買掛金や未払金が減少したことなどにより、前連結会計年度末と比較して2,600百万円減少(20.2%減)の10,273百万円となりました。

純資産については、配当金の支払いがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によって利益剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比較して4,461百万円増加(6.8%増)の70,098百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の81.0%から84.4%に上昇いたしました。

② キャッシュ・フローの状況

	前第3四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	10,119	10,289	169
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△7,168	△7,315	△147
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△2,797	△2,948	△150
現金及び現金同等物の増減額(百万円)	154	25	△129
現金及び現金同等物の期首残高(百万円)	2,749	2,974	225
現金及び現金同等物の四半期末残高(百万円)	2,903	2,999	96
フリー・キャッシュ・フロー(百万円)	2,951	2,973	21

(注)フリー・キャッシュ・フローは「営業活動によるキャッシュ・フロー」と「投資活動によるキャッシュ・フロー」の合計であります。

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物につきましては、2,999百万円となりました。
 なお、当第3四半期連結累計期間におけるフリー・キャッシュ・フローは2,973百万円となりました。
 当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローについては、税金等調整前四半期純利益の増加や、法人税等の支払額が減少したものの未払金の減少などにより、前第3四半期連結累計期間と比較して169百万円収入が増加し10,289百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローについては、固定資産の取得による支出が増加したことにより、前第3四半期連結累計期間と比較して147百万円支出が増加し、7,315百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローについては、配当金の支払いが増加したことなどにより、前第3四半期連結累計期間と比較して150百万円支出が増加し、2,948百万円の支出となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年4月27日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

連結業績予想の概要につきましては、次のとおりであります。

なお、サービスデータについては前回発表予想から変更してあります。

<連結業績予想の概要>

	平成28年3月期 (実績)	平成29年3月期 (予想)	増減	増減率 (%)
営業収益 (百万円)	62,656	62,900	244	0.4
営業費用 (百万円)	51,444	51,400	△44	△0.1
営業利益 (百万円)	11,212	11,500	288	2.6
経常利益 (百万円)	11,275	11,600	325	2.9
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	7,505	7,800	295	3.9

営業収益については、au携帯電話サービスの総契約数や「auひかりちゅら」の回線数が増加することにより、連結業績では増収を予想しております。

営業費用については、通信設備の維持管理コストが増加するものの、販売関連コストは減少すると見込まれることから、連結業績では減少を予想しております。

以上の結果、当期の連結損益状況については、営業収益は62,900百万円、営業費用は51,400百万円、営業利益は11,500百万円、経常利益は11,600百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は7,800百万円を見込んでおります。

《サービスデータ (携帯電話サービス)》

	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前年実績 (平成28年3月期)
純増数	10,000	13,000	3,000	30.0	15,600
総契約数	652,900	655,900	3,000	0.5	642,900

(注) 純増数及び総契約数は百契約未満を四捨五入して表示しております。

《サービスデータ (auひかりちゅら)》

	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前年実績 (平成28年3月期)
純増回線数	8,300	10,700	2,400	28.9	10,700
累計回線数	74,500	76,900	2,400	3.2	66,200

(注) 純増回線数及び累計回線数は百回線未満を四捨五入して表示しております。

今後、経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受け、業績に変動を与える可能性のある事象が生じた場合などにおいては、適時に業績予想の見直しについて検討を行ってまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
固定資産		
電気通信事業固定資産		
有形固定資産		
機械設備	34,578	34,759
減価償却累計額	△23,469	△23,547
機械設備(純額)	11,109	11,211
空中線設備	10,879	10,979
減価償却累計額	△5,151	△5,483
空中線設備(純額)	5,727	5,496
端末設備	1,086	1,157
減価償却累計額	△605	△650
端末設備(純額)	480	507
市内線路設備	11,350	12,027
減価償却累計額	△6,116	△6,650
市内線路設備(純額)	5,233	5,376
市外線路設備	37	37
減価償却累計額	△8	△10
市外線路設備(純額)	28	27
土木設備	180	193
減価償却累計額	△38	△43
土木設備(純額)	142	150
海底線設備	349	349
減価償却累計額	△349	△349
海底線設備(純額)	—	—
建物	11,009	10,992
減価償却累計額	△2,483	△2,823
建物(純額)	8,526	8,168
構築物	1,104	1,113
減価償却累計額	△785	△820
構築物(純額)	318	292
機械及び装置	164	165
減価償却累計額	△60	△74
機械及び装置(純額)	103	90
車両	157	157
減価償却累計額	△157	△157
車両(純額)	0	0
工具、器具及び備品	1,394	1,437
減価償却累計額	△899	△963
工具、器具及び備品(純額)	495	473
土地	2,087	2,087
建設仮勘定	1,082	888
有形固定資産合計	35,336	34,770

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
無形固定資産		
施設利用権	86	78
ソフトウェア	521	615
借地権	2	2
その他の無形固定資産	9	9
無形固定資産合計	620	705
電気通信事業固定資産合計	35,956	35,476
附帯事業固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産	733	677
減価償却累計額	△338	△381
有形固定資産(純額)	395	295
有形固定資産合計	395	295
無形固定資産		
無形固定資産合計	4	2
附帯事業固定資産合計	399	298
投資その他の資産		
投資有価証券	503	557
社内長期貸付金	18	14
長期前払費用	459	733
繰延税金資産	812	673
敷金及び保証金	35	38
その他の投資及びその他の資産	150	70
貸倒引当金	△120	△43
投資その他の資産合計	1,859	2,044
固定資産合計	38,215	37,819
流動資産		
現金及び預金	2,974	2,999
売掛金	18,236	18,514
未収入金	854	1,118
貯蔵品	827	1,039
前払費用	217	385
繰延税金資産	408	272
関係会社短期貸付金	16,911	18,405
その他の流動資産	6	8
貸倒引当金	△142	△191
流動資産合計	40,295	42,551
資産合計	78,510	80,371

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
固定負債		
長期借入金	295	234
リース債務	163	80
ポイント引当金	1,084	1,053
退職給付に係る負債	284	285
資産除去債務	200	187
その他の固定負債	41	41
固定負債合計	2,069	1,881
流動負債		
1年以内に期限到来の固定負債	162	142
買掛金	1,352	1,060
リース債務	122	110
未払金	6,511	4,999
未払費用	180	166
未払法人税等	1,624	884
前受金	331	288
預り金	223	597
賞与引当金	264	126
役員賞与引当金	30	14
その他の流動負債	0	0
流動負債合計	10,803	8,392
負債合計	12,873	10,273
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,414	1,414
資本剰余金	1,614	1,615
利益剰余金	60,715	64,922
自己株式	△0	△0
株主資本合計	63,744	67,952
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31	68
退職給付に係る調整累計額	△189	△182
その他の包括利益累計額合計	△158	△113
非支配株主持分	2,051	2,259
純資産合計	65,637	70,098
負債・純資産合計	78,510	80,371

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
電気通信事業営業損益		
営業収益	32,466	32,962
営業費用		
営業費	8,455	8,237
施設保全費	3,202	3,303
管理費	1,261	1,258
減価償却費	4,077	4,284
固定資産除却費	614	530
通信設備使用料	4,329	4,666
租税公課	291	340
営業費用合計	22,232	22,622
電気通信事業営業利益	10,234	10,339
附帯事業営業損益		
営業収益	13,979	13,712
営業費用	14,895	14,246
附帯事業営業損失(△)	△916	△534
営業利益	9,318	9,805
営業外収益		
受取利息	20	13
受取配当金	5	6
受取賃貸料	6	7
受取保険金	2	0
雑収入	16	17
営業外収益合計	51	44
営業外費用		
支払利息	8	5
雑支出	0	0
営業外費用合計	9	5
経常利益	9,360	9,844
税金等調整前四半期純利益	9,360	9,844
法人税、住民税及び事業税	2,697	2,400
法人税等調整額	82	253
法人税等合計	2,779	2,653
四半期純利益	6,580	7,190
非支配株主に帰属する四半期純利益	258	249
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,322	6,941

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	6,580	7,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	39
退職給付に係る調整額	4	7
その他の包括利益合計	△4	47
四半期包括利益	6,576	7,237
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,319	6,986
非支配株主に係る四半期包括利益	257	251

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,360	9,844
減価償却費	4,190	4,382
固定資産除却損	514	413
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△26	△27
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	46	△31
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△136	△137
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	20	1
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△18	—
受取利息及び受取配当金	△26	△19
支払利息	8	5
売上債権の増減額 (△は増加)	△184	△277
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△54	△155
仕入債務の増減額 (△は減少)	△427	△292
未払金の増減額 (△は減少)	△271	△362
その他	944	90
小計	13,938	13,432
利息及び配当金の受取額	26	19
利息の支払額	△6	△3
法人税等の支払額	△3,838	△3,158
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,119	10,289
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,667	△5,228
有形固定資産の売却による収入	3	38
無形固定資産の取得による支出	△242	△218
資産除去債務の履行による支出	△4	—
投資有価証券の売却による収入	—	2
関係会社短期貸付金による支出	△18,419	△17,612
関係会社短期貸付金の回収による収入	16,231	16,118
事業譲受による支出	—	△23
その他の支出	△83	△402
その他の収入	14	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,168	△7,315
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△151	△81
リース債務の返済による支出	△108	△94
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△2,513	△2,730
非支配株主への配当金の支払額	△23	△23
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△18
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,797	△2,948
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	154	25
現金及び現金同等物の期首残高	2,749	2,974
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,903	2,999

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しております。